
戻らなくていい

やしろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戻らなくていい

【コード】

N5660P

【作者名】

やしろ

【あらすじ】

10年前の私と今の私、何がどれくらい違うのでしょうか？

(これはピクシブ、ノベリストにも載せたものなので転載したものです)

10年後のわたしへ

4年3組 た

かせ あすか

こんにちは、10年後のわたし。元気でやっていますか？

とつぜん、こんな手紙を読んで、とてもおどろいているんじゃないですか？10年もたったら、わすれっぽいわたしのことだから、どうしてこんな手紙を書いたのか、なんて、どうせおぼえていないでしょう。

今日は、じゅぎょうで10年後の自分に手紙を書いてみましょう、ということをやっているんです。

今のわたしは10才だから、10年後のわたしは20才ですね。もう、りっぱな大人ですね。

もうおさけは飲みましたか？車は運転できますか？虫歯は、ふえていないといいな。歯医者さんに行くのはいやだから。それとも、10年もたてば、歯医者さんくらいへのかつぱなんでしょうが。

10年もたてば、もう中学校もそつぎょうしてるんですね。英語は、しゃべれるようになりましたか？

高校も、そつぎょうしてますよね。かれしはできましたか？いっしょに帰ってくれるこい人がいてくれるといいな。

10年後のわたしも、どうせわすれっぽいんだらうけど、おぼえていてほしいことが、一つあります。

それは、わたしの夢です。

わたしは、しょうらいは人の役にたてる仕事につきたいです。

わたしのした仕事で、みんながえがおになってくれる。これって、すてきなことだと思いますか？

まだ何をやったらいいのか、よくわからないけど、10年後のわたしなら、きつと知っているはずですよ。それが今のわたしには、とて

もうらやましいです。

明日のわたしがどうなるのか、10日後のわたしはどうなるのか、それから先のみらい、なんてわたしにはわかりません。10年後のわたしなら、ぜんぶ知ってるんでしょう？

わたしがいつ泣いて、いつおこって、いつわらって、そしてどこに行くのか、わたしはぜんぶ知ってるんでしょう？

わたしは、なんにも知りません。

明日、ころんで足をすりむくかもしれない。あさって、かぜをひくかもしれない。1週間後、うちにどろぼうが入って、なにもかも持っていかれてしまうかもしれない。でも、なんにも知らないんです。知らないから、こうして大人しく席について手紙を書いているんです。

この手紙を読んでいる、10年後のわたしは、さぞかしおかしいでしょう。わらっているかもしれないね。

あなたが知っている何もかもを、わたしは何も知らないだから。それとも、泣いているんでしょうか。わたしがなんにも知らずに、こうしてのんきに手紙を書いていることを、悲しく思っているんでしょうか。

すぐ先のみらいで、わたしにひどいことがあって、そのせいで10年後のわたしは泣いているのかもしれないですね。でも、何度も言いますが、わたしはなんにも、知らないんです。

だから、今のうちに書いておきます。

わたしはこれから、10年かけて10年後のわたしになります。

そのとちゅうで、泣くこともあると思います。けっかんがきれるほどおこることもあるかもしれません。

でも、それはかこのわたしのせいではないし、いつだってそのときのわたしのせいなのです。

だから、あんまり昔のことをふりかえってよくよめるのはやめてください。

そのときのわたしができることを、せいっぱいやってください。

今、なんてすぐにかこのことになってしまいましたが、それでもいいだってそのときが「今」なんです。

あなたにとっての、10年前のわたしから言えることは、これくらいです。

それじゃ、10年後にまた会いましょう。

この手紙を読んで、へんなかおをしているわたしが、目につかびます。

「何これ？」私は、誰も答えてくれる人がいないのを承知でつぶやいた。

傍には、さつき乱暴に開封してばかりの封筒が転がっている。

差出人は、普通っていた小学校だ。手紙と併せて考えると、律義に10年間保管した後に、わざわざ卒業生に送ってくれたようだ。

封筒の中には、昔の私が書いた手紙の他にもう一枚入っていた。

『10年前の自分の手紙は、どうでしたか？初心を忘れずに、これからの生活に活かしてください』と、書いてある。

たぶん、担任の先生が書き添えてくれたんだろう。

私は、買ったもののまったく使っていないレターセットを出してきて、そのへんに転がっていた鉛筆で書き始める。

今の私がしなくてはならないこと、それは、やっぱり10年前の私に手紙を書くことだろう。

ついさつき、10年前の私から手紙が届いたので、こうして返事を
書いている所存です。

正直、驚きました。書いたってことすら忘れていたから。
とりあえず、手紙をありがとう、と言っておきます。

質問には順番に答えていきますね。

お酒は、けっこう飲む機会があります。今は大学生だから。
車の運転も、一応できるけど、ただのペーパードライバーです。が
っかりした？

虫歯は、少しだけ増えました。気をつけてるつもりなんだけどな。
中学校はちゃんと卒業したけど、英語はほとんどしゃべれません。
ハローとか、サンキューとかは言えるけど、そんなの、10年前の
私だって言えたもんね。

高校も卒業したけど、彼氏、とうとうできなかつたなあ。でもね、
一緒に帰ってくれる、素敵な友だちはできたよ。だから、別に期待
はずれてわけじゃありません。高校生になるの、楽しみにしてて
よ。

それから、将来の夢だったね。

もちろん覚えてるよ。自分の名前を忘れられないのと同じ。私の一
部として、今もあります。

でもね、がっかりしないで聞いてほしい。

あなたが思っているほど、私は進歩していません。

もちろん、10年前の私よりできることは増えました。小難しい英
単語だつていくつも覚えたり、ジュースみたいな感覚でお酒を飲む
ようにはなりました。

でも、未だに外国人と話せるわけじゃないし、虫歯になれば歯医者
さんにいくのは怖いです。

そう、たいして変わらないんです。

目標はあるけど、それに向かって着実に進歩できているかというと、

今でも首をひねってしまっんです。むしろ、あなたよりも、今の私の方が、もっと目標から遠のいたように感じることはかりです。

私の方が10年をとったぶん、あなたより10年タイムリミットに近付きました。

私の方が10年分の経験を積んだぶん、あなたより10年ぶんの疑問が増えました。

将来の夢。すてきな響きです。でも、今の私には、いつがその「将来」なのかわかりづらくなってしまいました。

あなたは、時間がたてば何もかも、それなりに変わっていくと思っているでしょう。でも、そんなのは気のせいです。実際には、たいして変わらない。

外見が変わっても、身近にいる人が変わっても、それで私が変わるわけではありません。

10年前の私が変わらないことは今の私にだってわからないし、おそらくさらに10年たってても、それは変わらないでしょう。

私は、あなたの10年先の未来はひととおりわかります。

でも、そんな私だって、明日のことはわからないんです。当然ですね。私は、超能力者じゃないんだから。10年前の私がそうだったように。

人の役に立てる仕事がしたいって、言ってたよね？

でも、考えてもみてください。人の役に立たない仕事って、いったいどれくらいあるんでしょう？

お医者さんのように、直接人の命にかかわる仕事でなければ、人の役に立っていることにはならないんでしょうか？

ノーベル賞をとらなくては、世界から必要とされなくなってしまっんでしょうか？

そう考え始めると、私はいったい何をしたいかわからなくなってしまうんですね。言いたいこと、わかります？

10年前の私の方が、もっと率直に目標を持っていたと思うと、な

んだか悔しい気がします。

何度も言いますが、今の私とあなたとの違いなんて、あんまりありません。

学校に通ったぶん、使える漢字は増えました。

挫折を味わったぶん、物事に臆病になったかもしれません。

人に頭を下げたぶん、我慢が利くようになりました。

でも、それだけです。

私は高瀬明日香のままだし、これから10年たって、もしも名字が変わっても、それで私が変わるわけじゃありません。

だから、むやみやたらと未来に期待するのはやめましょう。

あなたが言ったとおり、それがどんなに短い時間でも、私たちはいつでも「今」にいるのです。

ずっと先のことのように思っても、いつかそれは「今」になってしまうのです。

私ができることは、未来についてあれこれ考えることではありませんせん。

今できることをやる。これだけなんです。

10年たって、20年たって、たぶん死ぬまで、この事実は何かわらない。

こうして書いてみると、10年前の私と、言ってることが変わっていませんね。進歩ないなあ。

もったかつこいいこと書けばよかったんだけど。あなたが知らないことをつらつら書けるほど、大人になってればよかったんだけど。

ときどき、昔はよかったな、と思うことがあります。

子どもでいるということは楽だな、責任ないし、と。

でも、こうして10年前の私からの手紙を読んでいると、そうとは言い切れなくなりました。

たとえ10年後の私が、「昔の私はよかったなあ、気楽で」と言うことがあったとしても、今の私はそうは思いません。今は今で思うことがたくさんあるし、悩んだり、ため息をつきながら生きています。

でも、笑うことだってあるし、言いつくせない喜びを感じることも、たしかにあるんです。

だから、今、このときが気に入っています。

最後に。手紙、ありがとう。

あなたのこれからの10年間、いろいろあります。楽しいことばかりじゃないです。覚悟しておいてね。

一人で涙を流したときだってあったし、胸が痛くて呻くこともありました。

人が憎くて仕方ないこともあったし、逆に申し訳なくて消えてしまいたいと思う日もありました。

でも、それなしに、今の私はありません。

10年かけて、いろんな痛みを知ってください。

知って、それでも「今」が好きだと言える私でありますように。

(後書き)

ここまで読んでくださってありがとうございます！感想いただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5660p/>

戻らなくていい

2011年10月8日03時12分発行